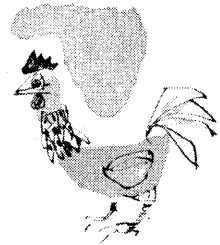


新春対談



串田 孫一
周郷 博

★ おまけ

串田 最初からおかしな話ですけど、グリコにおまけがついていますね。おまけの歴史なんていうの、誰か書いている人ないかと思いましたが……。

周郷 今は違うんですよ、子どもにきいたけど。そんな素朴じゃないんです。

串田 “買わせるようなおまけ”で

すか。

周郷 もとは本当に“おまけ”で愛さようでしたよね、実用ぬきの。

串田 家の近くに小学校がありましてね。ビスケットに券がついているんですね。それを何枚かためて送るともらえるんです。月光仮面か何か……。そのビスケットが往來いっばいに捨ててあるんです。ビスケットは食べたくないんです。

周郷 そう。そう。

串田 びっくりしちゃったんです。

周郷 つまり、付録文化になっちゃったんですね。お母さんがデパートに行く、それもおまけのために行くようなものです。

串田 お茶を飲む券がついてくるといそいそみんな行く。ご内覧とか何とか、ちょっと特別扱いにするとうれしくなってしまう。

周郷 そういうのがどんどんひどくなっちゃって、そういう中に人間がまきこまれちゃってる。何が人生において大事なのか、何が附属的なのか、わからなくなっちゃってる。

幼稚園というものがおまけ的なものになってる気がするんですけど、どうでしょう。

串田 私のところは、今のところそういう家族がいらないんですけど、どこの教会へ行くとどこの幼稚園へ入れ

る。するとこの小学校、というふう
に順々に行く。前にいた大学の面接の
時「なぜ入るのか」というと「ここへ
くると〇〇商社へ入りやすい」とか、
それだけしか返事が出てこないんです。
最後のところがどうなのか、ここへい
けば安楽死ができるとか……。 (笑い)

周郷 何が本体で、何が真剣にとり
くむべき問題かというところがなくな
りましたね。

串田 なくなりましたですね。

周郷 そこを、いいかげんにしてい
ても生きていられるんでね、付録みた
いに。でもそれだけだと、心で本当に
こう、何かをやったという満足がない
から、それにまた食品が悪いから (笑
い) 顔につやがなくなつてぶつぶつな
んか出てくる。若いくせに。

串田 私は政治家っていうのはおつ
きあいがなければ、政治家っていう
のはたとえば大臣になるためにその道

を探して行く。悪いことをしても……。

そこで大臣になって革のいすか何かに
すわつて一瞬満足を感じるかもしれないな
いけど、いざ自分の家へ帰ると、うち
のおじいさん遊んでくれないなんてお
孫さんたちが逃げてしまふ。政治家の
表情っていうのは、ちよつと今おつし
やつたようなどんな顔もできるように
用意してある顔っていうのでしょうか。

周郷 そこへいくとやっぱり田中さ
んが毛沢東にあつて「少年のような人
だ」なんて感激してびっくりするわけ
だね。

串田 昔は政治家でも個性をはつき
り出した。そのために特徴のある顔を
した政治家がおられたと思います。

★ 幼稚園の思い出

周郷 串田さんが、ここにおられた
そのころのことをおききたいという
のが今日の一つのことなのですが、何

年ごろですか？

串田 十年、十一年、大正の。小学
校二年の時が大地震ですから……。

周郷 すると、あそこのお茶の水。

串田 ええ。家がお茶の水の近くで
はあつたんですが、その前は芝におり
まして、そこから通い始めたんです。
串田へ越すことはきめて入れたらしい
です。くるまへ乗せられましたね。通
いました。

周郷 くるま、人力ね。

串田 これは、私自身は記憶にない
んですが、母がしょっちゅういうもの
ですから。

その試験の時に、芝からおこつて自
動車に乗って来たんです。その試験で
乗物の絵がありまして、この中のどれ
に乗って来たか」と聞かれました。と
ころが自動車がないんです。しかたな
くもじもじしてたんです。それで自動
車で来たっていったら、先生に母親が

呼ばれて、今日は仕方ないですけど、これから先、こういうぜいたくな事はしないように”と叱られたそうです。

大分親がこたえたらしく、小学校のころは麻布におりまして暁星に通いましたが、一時間半ほど歩いて行かされたり、雪の日なんか辛い思いをしました。

周郷 それで、幼稚園はお茶の水で、あと暁星へ行かれたわけですね。

★ れんがの粉作りと茶巾しぼり

串田 ちょうど新庄先生のなくなられる前にここを拝借しまして、三時間ばかり新庄先生もおよびして集まりましたんですけれど、いろいろなことを先生の方がよく覚えていらして、先生が何かおっしゃると、そうだった、そうだったなんていうことがずいぶんございました。

つまらない事は覚えてるんです。れ

んがをすり合わせて赤い粉を作りまして、それが大事なんです。紙に包んで家へ持って帰ったものです。

周郷 いいですねー。

串田 その当時一人いたずらっ子がいましたね。その名前はみんな覚えていました。十人足らず集まった、全部が覚えていました。

それで、女の子と男の子が一緒だったんですけれど、男の子だけ外へ遊びに出されて、その間に茶巾しぼりを女の子が作ったんです。お芋にお砂糖を入れたのをねって、それを布の上ののせてこうひねる。そして”できました”っていわれて男の子がぞろぞろ入るわけです。

周郷 それ、いいねー。女が変になつてきたから、女らしくなっている。

串田 それは子ども心にね、女の子ってというのはこういう事ができるんだなって思いました。

周郷 感心するわけですよ。そして尊敬することになるんです。いま、個性をのばすとか何とか口でいってるけど、ちっとも個性が生かされてないんです。これは個性を生かすのにとってもいい。

串田 簡単ですしね。

その集りをしたのは三年ほど前ですが、いい年をしたじいさんばあさんがすべり台にのったりなんかして遊びました。新庄先生は一人一人の事をよく覚えていらして、ぼくのことを”あなたは集りの時も来なくて、裏の物置きのところを草をむしって、ひねくれた子どもだった”とか。(笑い)

周郷 しかし、そういう小さい時のことをいわれると、いやじゃないね。

串田 ええ、気持ちいいです。何かうれしくなつて……。そういう先生の前で、ぼくはとうとうたばこは吸えませんでした。叱られそうな気がして。

周郷 そうだと思うね。

★ 暗唱する

串田 先生自身は、私あのころどんな事を教えていましたか、なんて聞かれましたが、これらもあまり覚えてないですね。

何か、暗唱させられてね、童話を。

長いんですよ、全部しゃべったら十分ぐらいかかるような。小さな駅に駅長さんと荷物係がいて、一日一回汽車が着く、それをまっつてでどうこうという、途中まではわれわれも覚えているんですけど、終りは忘れちゃいました。

周郷 それもやりたいなあと思つてることなんです。ヨーロッパならやつてると思う。何の事かわからなくても、文章は心にひびく意味深いものです。あとで物を見たりなにかする時にいいことが出てきますよ。

串田 そのあと暁星でもやりました。

できないとなくられるんです、小学校一年で……。

周郷 それは日本語ですか、フランス語ですか。

串田 フランス語です。フランス語はきびしくて、つまりご不浄へ行くにも日本語でいったら行かしてくれないんです。手を上げて「カビネ」、大きい方だったら「グラン カビネ」っていうんです。(笑い) 日本語でいったら先生知らん顔なんです。ですから途中でもらすのもしました。

まる暗記っていうのも案外いいものですね。

周郷 小さいうちに、わからなくても、聖書の文句でも、いい詩でも、レシ、(rosi) 小さい物語ですね、それを暗記しなければいけないんですよ。子どもは、知らないでわかる、という年齢があると思う。それが今の幼児教育には忘れられていると思うな。

串田 それが、そのうちに、実際にしていることと結びついてくるんです。

周郷 ずっと大昔を考えてみると、今みたいに本があるわけじゃなし、おじいさんやなんかの言葉を暗記したんだと思う。それを口でいっていると、経の文句みたいに心が安定するんじゃないかな。

串田 小学校四年ぐらいの時、教壇へ立って話をさせられるっていうことがありました。それには学校で使わないう童話なんかを覚えてって、それを皆の前でいうわけです。しかし四年ぐらいになるとともいやで、皆が笑うような話があったものです。特に今だったら、テレビなんか見えますから笑わせなくっちゃということが入ってくると思えますね。

周郷 この話も、さっきの茶巾しほりも、それかられんがの粉つくりも、みんないいですね。

★ 玩具・道具の氾濫

串田 遊ぶ道具っていうのが、卒業のころに中が空洞の積木がきましてね、それを積んで遊びましたが、あとは道具っていうのがなかったような気がします。たまに先生がひごと豆で……。

周郷 ああ、豆細工ね。

串田 そんなことぐらいでした。

周郷 それに比べて今はね、遊び道具が多すぎる。だからぼくは、あれじや遊びにならないっていうんです。今の話の方がよっぽど遊びですよ。

串田 子どものころのことを考えてみると、上等な玩具をほしがったこともあると思いますが、それはなかなか買ってもらえず、よそのおじさんからもらっても親がとり上げてすぐには使わせてもらえませんでした。かえってその辺の木くずを、船の形をしている木くずを見つけたりと、大切に大

切で、うれしくてたまらなかったものです。

周郷 そんなことから考えると、幼稚園のへやの中もね、物が多すぎるんです。それから町には食品がいっぱいだし、デパートには品物がいっぱい。日本人が子どもをよく育てようと思つたら、ああいうのを少なくしなければだめです。

串田 鉛筆なんかでも買ってもらったものより、おもてで拾った傷だらけの鉛筆なんていうのが大事で……。

周郷 鉛筆なんかもあんまりなくて、運動会なんかでもらうとうれしかったでしょ？

串田 前に私は大げんかをしました。三菱鉛筆の広告か何かで、一本売りはしないでダースで売ることにしたと業者がいつているのです。一本売りの鉛筆が買えないことになったら大変なことになると思いまして新聞に書い

たら、業者が怒ってきましてね。それから鉛筆けずりっていうのがまたきらいでした。

周郷 ぼくもいやなんだ、あれ。入学祝いなんかにくれる人が多いんだ。それに電気鉛筆けずりなんて。

ぼくが最近落ちついたのはね、今までは小刀だったけれど、今の子どもは小刀でけずれないんです。あれ、きれいにけずるのむずかしいんです。鉛筆けずりはね、中華街で中国のを買ってきたの。自分で鉛筆をグルグル回すので、上に中国の人間がついてるの、これをいつも愛用しています。

串田 私が、知り合いの小学生をもつたお母さんにききましたら、小刀は危いからもたせないし、学校には鉛筆けずりがあるといたんです。この子たちは、ナイフをもたないで大学を卒業しちゃうんじゃないでしょうか。

周郷 ナイフというものはね、人間

の過去の歴史を考えてごらんさい、まさに人間になった喜びというようなものですね。おのとかナイフが使えるようになったというとは。

串田 ターザンが iba ばっていられるのはジャックナイフだけです。そのほかに何も無い、それであれだけの違いですから大変なものです。

時間がむだだなんていうかもしれませんが、鉛筆けずっている時に、いろいろなことを考えるわけなんです。昔は火鉢かなんかのところですね。あの木のおい！ あのおい、なつかしいにおいですね。

周郷 そう、木はね、炭火の中に入るといいにおいがあるんでね。香をたいてるようなもんです。(笑い)

★ 過保護

串田 私が外語にありました時、試験の立ち番をやらされましたが、毎年、

毎年父兄のついてくるのが多くなりまして、多い人はおじいさんおばあさんまでくるのです。そして学校は、私は反対したのですが、講堂をあけてお茶の接待をするんです。幼稚園かなにかならないのですが、大学の試験をうけてきて、その頼みもしない人がついてきて、お茶を出すなんてとずいぶん反対したんですがそういうふうになっちゃいました。

やめる年に、本当にやめてよかったと思うのは、五月に履習カードを出すわけですが、それに親がついてきまして二年生か三年生が通りかかりますとよびとめるんです。この三人の先生の中でどの先生が甘い？ なんて親がきいてるわけです。学生のことですから「あ、これがいいです」なんていうとお前、これにしないさい」「はい」ってこんな所にいちゃ大変だと思ってやめ

ましたが、こういうのが会社へでも入って転勤だなんていうと、親が人事課へ行くんじゃないかと思いました。実際びっくりしましたね。

周郷 今年からはこの大学でも親は門の中へ入れないようにしました。

それで思い出しましたが、十年ぐらい前にアメリカからハルヒッシュという人がきていてちょうど春で、親がついてきているのを見て「何だ」っていいんです。中にはおまじないに梅干しか何かをもってきているっていいましたら、その梅干しの方には興味ももってね。アメリカでも試験のおまじないに兎の足をもつて行くんだそうです。

串田 ほう。

周郷 卒業式にもぞろっと親がついて来てね。前にそのころ本郷三丁目のところを通ったらそろそろ親がいるのね。ぼくらのころは親どころか本人も出なかつたりしてさ。

串田 卒業証書を取りに来いとあとから何度も何度もはがきが来て……。大学の時は研究室でまとめてとつてくれましたが、高等学校のはとうとう、ぼくは見ていません。

★ 魅力のある先生

周郷 串田さんやぼくらの学生当時、ずいぶんいろいろな面白い先生がいましてね。斎藤まこと、宇井伯純。

串田 宇井先生は面白かったですね。

周郷 ずいぶんいろいろなむずかしいことを知ってるなあと思いました。

串田 辰野先生の戯曲の講議なんていうと、先生がフランスで見て来た芝居の真似をするんです。それを見物に行つたものです。

周郷 辰野先生って人は、本当に、ぼくは講議きいたことないけども、魅力のある、見るからに学者というか、魅力ある人物でしたね。

串田 カンニングがきらいでね。本当におこりましたね。たばこも吸いたきや授業中吸つてもいいよつていつておられても、カンニングとたばこは違つていわれました。

周郷 辰野先生の話がでしたが、やはり東大といつても先生によりましたね。

串田 大学へ入つてから初めて講議きくにしても、前からの評判をきいてあの先生の講議をきいてみようとか。出(隆)先生の中世哲学なんていうのはぼく一人しか出てないんです。それと早稲田の学生で松浪信三郎とか……。

周郷 ああ、実存主義の。

串田 ええ、むこうは友だちをつれて来るもんで、本ものはぼく一人で、早稲田の学生が三人くらいでした。

周郷 出先生っていう人も、ふしぎな魅力をもった人でしたね。

串田 今でもお元気なんです。今年

の夏友だちとまいましたら、試験をされましてね。アリストテレスの全集かなんか、お前たちに教えといたはずだがつていわれましたね。

出先生の前では、学生時代からたばこはのんでましたから、たばこはのめますけれど、やはり、その先生の前でできない事があるつていう先生はいいものです。かたくなるような。

周郷 なんかあの、普通の意味じゃなくてかたくなるつていう、おかしがたいものを感じるとかね。

★ おそれ

串田 今の小さい子どもは、こわいつていうと何がこわいんでしょう。

周郷 お母さんたちと話し合つたところがあるんですけど、今ね、子どもはこわいものはないんだつていうんです。そりゃそういつてしまえば簡単ですよ。しかしこわいものが何もなくなつちゃ

ったんだな。だから何かぼくは今日の教育、幼稚園では特に、先生が一番大事でしょう？ 魅力のある、そしておかしがたいところのある先生が必要なんです。

いくつになってもこわいものがある方がね。実際はこわいものがあるわけでしょう。

ぼくは今年函館に行った時、北海道の幼稚園の先生からきつね火の話を書きました。その人は、敗戦後職がなくて、ご主人が材木の仕事をしていたんだって。いかにもちゃんと条件がそろってるでしょ、雨が少し降ってる夕方なんだな。するとね、ポツと一つ火がつくと、ポツポツポツと動いてくるというんです。そういう話をきいてると本当にぞーっとしてくるんだ。ぞーっとしてきながら楽しいんだ。

串田 楽しいですね、本当に。

周郷 河童なんていうのも、坪田譲

治の作品なんか、実によく書いていますよ。しかし、そういうものがなくなっちゃったんだ。

串田 怪獣なんて、ちっともこわくないんです。

周郷 どんなに人間が勉強したって、わからないものはたくさんあるわけですよ。こわいものがあるわけです。最近是人間が気味悪くなってきたんです。

串田 本当にそうです。

周郷 人間が気味悪いって気がしません。自分の中にもあるわけですよ。こわいものが。全部なくなってしまうたら、生きててもしょうがないですよ。

★ 無気力

串田 あのー、けんかをしなくなつた。往来でけんかをしているのを見かけなくなりましたね。よっぱらいのけんかは別として。

この間も順法闘争で、私のところか

ら都心へ出てくるのに一時間半ぐらいかかるわけです。いつもの倍くらいまってね。その中で、みんないららしているのかどうか、あきらめたような顔してね、まあ文句いってもしようがないでしょうけどもね。ぶつぶついう人、一人もいないし、こう、のび上がって体操なんかして……。(笑い)

周郷 本当にそうです。全部もうあきらめているんです。自分はもう何やってもだめだと思っちゃってる。で子どももそう思ってるの。だから、機械にはめこまれたようなもんでね。そして、実はそういう状態でこわいものはますます積み重なって行って、変になっちゃうんじゃないかと思うんです。

串田 電車の中で小さい子が乗ってきて、がちゃがちゃやって……。前にはね、変なおじいさんが、うるさいとか何とかいってたんですけれど、今は何もいいませんね。

周郷 ぼくは園長になってから暫くの間ね、地下鉄にのると、子どもがあつちいつたりこつちいつたりするの。ここの子どもじゃなくても叱りとばしてやろうと思うけれど、乗物の中でそれほど勇氣なくてね。

いつか中央線に乗ってたら、三十五ぐらいの女の女の人なだけど、全部叱りとばしたの。尊敬したねー。そしたら静かになった。ぼくにはとてもできないけど。

串田 高校生なんか、一度あんまりすわり方がだらしないので、言葉ではいわなかったんですけど、ちょっときつく、つき出たひざをぐつとやったんです。そしたらね、あ、すみませんでした。っていつて、こつちがとまどつちやたんですけどね。だから、いわれたことがないんで、こうやってちやいけないことに、今気がついたのかもしれないんです。すみませんでした。

ってちゃんとおじぎしてね。

周郷 ただ足を出してるだけじゃなくて、ちゃんと腰かけてないのね、すわり方が。最後までおしりを入れとけばいいのに。

串田 また、今のいすはあの連中には低すぎるのかもしれないね。私たちが幼稚園のいすにかけてるようなもので……。案内変な格好しているのが全部変なわけでもないんですよ。

★ 素朴なもの

周郷 ぼくこのあいだテレビ見てたね。成田の闘争をやった若者、毛を伸ばしたのが出てきたんです。で、発見したような気がしたんだけど。その百姓の人たちと一緒にやってやったわけでしょう、するとね、百姓のじいさんとね、話してると心が素直になるって、その若者がいつてるの。だから、何かそういう年とつちやっ

た人ときあうことで、若い人はむしろね、素直になるっていうことがあるはずなの。ところが大ていは、今の若いやつはしょうがないと思つてる、いえ何やられるかわからないと思つてる。本当はそうじゃないと思うんだけど、外に何もかぶさつてない、何か素朴なものにあこがれてるんですね。

串田 旅行なんかしても、お嬢さんなんか二・三人で行つてね、田んぼにいる農家のおじいさんなんかと話し合うなんていう、きつと面白いんですよね。

この間、ある会社の女の事務員なんだけれど、旅先でいい顔をしたおじいさんが、おひつを作つていのに出会つた。木曾かなんかを歩いて……。それでね、おひつのこんな大きいのを三人とも買つちやつて、それかついで旅行したんだそうです。うっかり買つちやつたつていうんです。安くもあつ

たんでしょうけれど、そのおじいさん、一日いくらもできやしないし、あぐらかいて仕事をしている。その前を通りがかりにそこで半日話しこんじやったらしいんです。

周郷 若者たちはね、そういう人にあこがれる気持ちがあるんです。

串田 そういう人にぶつかれば、あとは汽車がこんで印象が悪くても、満足でしょうね。

周郷 串田さんの書かれた随想やなんかを若い人が好きなもの、通じるものじゃないんですかね。

★ 本当の子ども

串田 いつか、子どもっていうものは本当に、ああいうものだと思うたのは、日光の鬼怒川のまた奥に手白沢っていう温泉がございましてね、それは本当の山の中の一軒やで、それも雪が降り出してから私が行ったんです。

そこに三つぐらいの、やっと口がきけるぐらいの子どもがいて、ぼくが夜おそくなつて入って行って泊めてくださいっていいましたら、「どうぞ遠慮しないで」って、その、炬がきつてあるんです。「そのまんまふんごんでください」ってちっちゃな子どもがいうんですね。

周郷 子どもがですか。

串田 ええ。子どもの言葉っていうのを全然知らずに育つてるわけです。炬ばたにあぐらかいて、そして親も別にその子に話すのに子どもの言葉を使わないわけです。翌日その温泉の湯元があるっていうんでぼくが朝行つてくるっていったら、「お前案内しろ」って、大きな親父かなんかの長ぐつばかばかはいてね、ぼくを案内するわけです。それで、いちいちね、「この石すべるぞ」なんてやるんです。(笑い) 枝がこうあると自分で持つて、「これ、はねるぞ」

なんて、案内するのがうれしくてしょうがないんですね。休んで一服すると本当に小さな豆ぎせるなんか吸つてもいい感じなんです。

その子どもの後日談で面白いのは、小学校へ入るので鬼怒川のおじいさんの家へあずけられて、まず床やへ連れて行かれたわけです。それで床やが、「どういうふうに刈る？」っていったらね。腕ぐみして、「虎とらに刈つてくれ」っていったそうですよ。山の中でしょっちゅう親父さんにとら刈りにしてもらってたんですね。床や、びっくりしただろうと思えますよ。小ぢやなくせに全部おとななんです。みんなわれわれおとなが、子どもに言葉を教えてるわけですね。

周郷 そう、人生観までね。

串田 私の子どもが戦争中、家が焼かれちゃって山形の農家にやっかいになつてたんですけれど、一年半ほどし

て、四つと三つでしたが東京へ戻って来ました。そして上野へ着いて、地下鉄へ乗るんで人をかきわけかきわけ歩いたんです。

「東京は人間ばっかりだ、どこまでいっても人間だ」っていうんです。

周郷 しかしそれ、実に詩みたいでいいじゃないですか。

★ 自然と人間

周郷 串田さん、レイチェル・カーソンで知ってますね、カーソンが子どものことを書いたのがあるんですよ。やっぱり小さい子どもはね、団体で行っちゃだめだけど、少数で山を歩かせたおとなと話していると、その歩いた道から、植物の名前まで、全部覚えちゃう、そういう能力があるんだそうだ。

串田 ああ、そうかもしれません。

周郷 一方ではこう、やみのこわさっていうのか、ぼくはそれをやってみ

たいと思うんだけど。

串田 昔の試胆会とかね。

周郷 そうそう、小さいとこわさがよくわかるんですよ。日本の大都会っていうのはこういうふうになっちゃってますからね、そういうことをやらなきゃならないんです。

ぼくは、一人前の人間になるというより、まっとうな人間になることの方が大切だと思うんです。一人前っていうのは世間に対する考え方で、何も世間に合わせなくていいんです。

串田 私も三人子どもがいますけど、こっちは元氣だったものですから小学校へあがる前から山へ一緒に行きました。それで、小学校へ入ってからかな、野宿なんか一緒にしました。そうすると、今度自分たちだけで行っても、山へ行けば野宿するもんだと思つて……。

周郷 そしてやっぱり、夜明けの海だとか、山の夜明けっていうものね、

見ると二歳でもそういうもの、わかるっていいですね。ま、ちょっといいすぎかもしれないけれど。

で、カーソンのその本の終りの方に、子どもの時そういう経験をしてると、ととつて退屈しないっていうんです。ととつても自然は無限にあるんですから……。

串田 大体、東京に自然がなくなつたなんていうことをいってるのは、そういう自然を見ずに育つた人で、ぼくはよくそれをいうんですが、四谷から赤坂まで歩いてみると、今も何百種類の草が土手にありますしね。気をつけるとちようちよがとんだり、銀座あたりでもちようがとんでることがあるんですよ。ああいう並木に卵を生んで、どこでどういうふうな死ぬかもしれまんけれどね。

おととし、あかたてはがあの、銀座の四丁目、どうも尾張町っていっ

てしようがないんですけど……。

周郷 ぼくら、尾張町だな。

串田 尾張町のところとんでるんです。そこでぼくは、どこへ行くかと思つて見ても、まわりの人はただ歩いて目に入らないんですね。ちょっと珍しいなと思つて、ああいう近所に行たら、銀座のちようでも調べてみたいなつて思いました。

一度、銀座の野草は調べたことがあるんです。四十八種類ばかり。京橋から新橋までの表通りと裏通りだけを調べまして、京橋の共同便所の裏あたりが一番あつて(笑い)うっかりしやがみこんでち漢か何かに間違えられて、留置場に入れられても困りますが……。その時にまだ、新橋のところにトタンを立てて人が住んでましたが、その掘割のところ松葉牡丹が生えてるんです。どこからか種がとんで来たのかなと、さくを越えてそれを見ました

ら、トタンの中から顔がニユッと出て、それはおれんだからとっちゃいけないうつて。

周郷 その中に住んでたんだな、焼跡に。

串田 とるんじゃないんで、あんまり珍しくてきれいだから見せてくれていつたら、うれしそうに顔をクシャクシャにしました。

周郷 そういう人の方が、一本の松葉牡丹を頼りにして生きていようなところがあるのね。

★ 本当の日本

串田 悪いんだけど、夕方でも東京駅から出てくる人を見てると人間のような気がしなくてね。ま、その人たちだけなら人間かもしれないんですけど、ちようどそこにしるし半天を着た水道直しの人が歩いてビルから出て来たんです。そしたら、これが人間だ”

つていう気がしたんです。それこそ、はだかになると背中ほりものでもしてあるようなね。そういう人たちと話してみると面白いことをいうしね。

周郷 変なことを思い出したんだけど、三年ばかり前、ぼくヨーロッパから帰ってきた時、向こうは空気が、きれいでしょ、東京の空がきたないんだ。それで今度、小田急に乗つて家まで帰る時、ちようど秋で、日本へ帰つて来たんだなつていう気がしてきて窓から見てたら、彼岸花が咲いてて、また少し行くとそばの花が白く、ざーっと咲いてるの。ああ、そばと彼岸花、これが日本だなつて思つたな。

串田 私は、中学の時義兄について南京に行っただけで外へ出たことはないんですけど、あの宗谷が燈台を回る時、雑誌社に頼まれて、外側から日本を見ました。しかし外側から見ると日本もきれいですね。長崎から海

を回って、台風に追っかけられたりして三保の関まで来たんですけれど。自分の家も、時々おそくなってせかせか帰るといふんじゃなくて、外から眺めるっていうことも必要ですね。

周郷 人間というものはね、他の動物と違って人間らしく見えるというのはそういうことじゃないでしょうかね。そこへもぐりこんじゃうんじゃなくて、外側から見れるっていう……。

★ 雲花・山

周郷 ぼくはね、雲なんかも、都会のまん中でバスなんか待ってる時、見るのも好きです。モクモク上がってきて、また早いですよね。そして太陽がかくれたりすると光線が実にきれいなんです。普通、やたらに見れないもんですよ。夕陽なんかもそうだけど、新宿なんかで一生懸命見ると、あいつ何してるんだろうと思われるんです。

だけど沈むまで見たくなっちゃう。しかし、そういうことやってる人、あまりないね。

それから、まだやりたくてやれないんだけど、山の中のどこかに、一本咲いてるっていう桜、ぼくはそれを春になったら見に行きたいと思う、それはきつと、もう都会にはない桜だと思ふの。

串田 前にぼくは、黒部へ黒百合を三日がかりで見に行ったことがあります。多分この時期に咲いてるだろうと思つて。前に教わったところが岩の角からちょっと曲がったところで、気になつて気になつて仕方なかったんです。まあほかへも行きましたが、その時の山旅の動機は、それだったんです。周郷 そういうことが、気にならないければいけないのよ、三日かかったつて。それ、ぼくがやりたくてやれないことを串田さんがやっていたらわけ

だけれど、ぼく十年くらい前に、寝袋をもって山へ行きかけた。ところが心臓が悪いもんだから、そのまんま死にました。死んでから考えてやめました。

串田 あんまり高くないところへ、今度停年になられたら、記念に一つ一緒にいかがですか。(笑い)

周郷 どうぞよろしくお願いします。

串田 今は、ツェルト・ザックについて小ぢやかなる簡単な天幕みたいのがあるんです。それを使って寝袋にでも入つたら冬でも寒くありません。先生、そんなところへいらしたらうれしくなっちゃつて一晩寝ないで、なんでもことになるんじゃないか。

周郷 全部が暗くなって、星がさつと見えて、世界におれ一人っていう感じ……。

串田 一度野宿すると、本当に熟睡できるような気がします。島々谷で一人で野宿した時なんか帰ってきて、今

年は谷は熊が多いってことだが”って、いわれてああそうかと思いましたがね。先にいわれてたら行かなかったかもしれません……。(笑い)

「いたちやなんか多いんです。がさがさいうんで懐中電燈をつけてみると、いたちがキョトンとした顔でこっちを向くんです。」

周郷　きれいでしょ、いたちの姿っていうのは。

串田　ええ、きれいです。そしてえらく早いです。朝、寝袋の中にいると兎がかけてくるんです。いたちにおいかけられるんです。それをちよっとじやましたり……。

このごろは島々からみんなバスで上高地へ入るようになって、またこのごろ少し歩くようになったようですが、久しぶりで行って道がなくなってしまうました。やっと川に出て丸木橋をわたって、その真中で、夜半の一

時ころです。電池がなくなつてとうとうそこで、しぶきのかかるようなところで寝たこともございます。

笹子峠なんか人が通らなくなつて、あそこはいいですよ。この間なんか、サルに十何頭出くわしました。みんな動物があそこへ集まっているようです。上から石を投げるサルがいてびっくりしました。われわれはちん入者なんです。

周郷　フランスでは教えるそうだけれど、われわれは動植物界の市民なんだそうだ。そして言葉で教えるだけじゃなく、じかに自然保護の活動をさせるんだそうだ。動植物界の市民だから、それを尊重して、義務を果たさなければならぬわけです。サルはサルで、人間が方々を荒らしたからそこにいるわけで、そこを荒らしちゃいけないわけです。

串田　ほかの動物はみんな、住み分

けということをやつてますね。人間だけが寒けりや火をぼんぼんたいて、本来なら住めないような所にまで、ちゃんと住んでしまう。

★海

串田　お目にかかりたいと思つた方にやつとお目にかかれました。でも考えられませんね、小さい方々と海へ行かれてその帰りにここへいらしていただけるとは……。

周郷　ぼく、今日海でも感じたけれど、テレビで見た海亀のこと。もとは茅ヶ崎あたりの海へもきたそうですね。海亀の子どもはみんな海へ向いて、向きをおしても、なおしてもまた海の方へ向く。何で海へ向くのかはなぜであるっていうんですね。

そして海亀の子は十五年くらい北太平洋からずっと回つて帰つて来るんだって。渡り鳥もふしぎだけれど、あんな

なのろのろしたやつなあ。卵を生む時のお母さんも大変なんだ。用心深く場所を探して、ため息ついて生むんだ。ぼく、尊敬しちゃうってさ、こんなすばらしいものいるのかと思って、四十分ばかりえらく感激しちゃった。

こんな小さいやつが、何を信じているのかなあ。生命っていうものは、どういうふうにできるものなのか、何に反応しているのか、今日ぼくは海でその事を考えてました。そこへいくと人間なんて行動範囲がせいまいんじゃないかしら。

串田 海の波打きわっていうのは何か、子どもがかけ出しながら、こう、ゆれてね。しばらくぶりで海岸へ行く。と自然にああいうふうになりますね。

周郷 それは、自然が人間に呼びかけてるのに反応できるんですよ。今日海で、岩の方々に穴になってるところにはぜの小さいのや、えびがい

るの、それとってきんだけれど。ともかくあの子どもたちに魚をつかまえさせるということ、海につながってる魚なんだ、ぼくはそれやったんでとても満足なんです。

いそっていうことも考えたんだ。いそって、実にいろんなものがあるんですね。みんな生きてて、岩について、ここまで波が来ることを信じるんだな、ずっと乾いちゃうなんて思っていない、海を信じてるんですよ。陸と海の境のところに生命があるんです。

串田 いそって本当に面白いです。あのふな虫なんていうの、あれは海に落ちると死んじゃうんだそうですね。あんなにしぶきがかかる所に住んでいながら、泳げないんだそうです。ずいぶんきわどい所に生きてるもんだと思います。人間だって同じなんですね。しばらくは泳げても、ずっとは泳げないですからね。

周郷 さっきの海亀も、岩礁のところでひと休みするんだって、そこへ行く仲間も待ってるんだって、人も来ないし。だから江ノ島なんて来たわけですね。ちゃんとそうやって生きてるなんていいなあと思って、尊敬するばかりです。

★ 創造のための後退

周郷 ぼく、昨日読んだんだけど、ケストラーの「アクト オブ クリエーション」創造の原理と記してありますが、創造のための後退”ということが出てくるんです。これはいい言葉だと思って今日、いそで考えました。

野性でも何でもいいんですけれど、作曲でも創造でも、本当にやった人は、競争してやったんじゃないかな。日本後退してやったんじゃないかな。日本人はもっと植物や動物にもどって、あるいは子どもの心にもどって、そこま

で戻ると競争をこえちゃいますよ。競争は必要ないの、それこそ本当に創造ができるという考えがあるんです。これはね、日本人が一番きびしく学ばなければならぬことです。今こそ後退しないと、死んじやいますよ。

幼児教育なんていうのも、その後退する場所にしなければいけないんです。もうちよつと勝手な想像をすると、中国があそこまでできたのも、後退してらんじやないかな。

串田 昔話をして、昔はよかったっていつて笑われますがね。私の友人にもいつそのこと何年か前まで戻さなきゃという人がいます。

でも去年からですが、小金井市で殺虫剤をまかなくなりまして、まずくもがふえましたね。それから今年は虫が非常に多くてがちゃがちゃなんて、テレビがきこえないくらいです。ちよつと手加減すれば戻ることができるんで

す。

今出がけに、上高地について具体的に、何か書くようにといわれたんですが、二年、三年、人を入れなければいんです。上高地を一度上荒地にする必要があります。自然の荒地です。お互いに何とかしなければならぬと思います。

周郷 それぐらい、人間はがまんしなくちゃね。

今日は、本当にぼくらが考えていたことの方向づけになるようないいことを、いっぱいいきかせていただきました。茶巾しぼりなどさっそく実行したいことですが……。本当に楽しい話でした。

(昭・四七・一〇・五)

山の随筆、私の博物誌などでおなじみの串田孫一氏と周郷先生に、新春対談をお願いいたしました。串田氏は、お茶の水幼稚園のご出身でもあり、この対談は園長室の外がまっ暗になるまでつづいて、時間があればもっともつとお二人に話していただきました。と、心を残しつつ終りました。(赤間)